

【肺がんの検査方法】

胸部X線検査(レントゲン撮影)

「胸のレントゲン写真」を撮影し、肺の中にがんを示す「陰影」がないかどうかを調べる検査です。健康であれば肺は黒、異常がある場合は白い影(陰影)が写ります。



咳痰検査

重喫煙者などのハイリスクの人に推奨されている検査で、3日間起床時に痰をとり、痰に含まれる細胞を調べます。

CASE1



肺がん

「たばこを吸わないから肺がんにはならない」は間違い。受動喫煙も原因の一つで、完全に予防することは難しく、検診などを利用した早期発見が重要です。

Interview

気づいたら進行していた
とならないために

初期はほとんどの人が無症状

肺がんは進行しないと症状が出ない病気です。症状としては、咳、息苦しさ、胸の痛みなどがあります。これがかなり進行しているケースです。私たちが手術する肺がんの多くは初期のもので、無症状の人がほとんど。検診や他の理由で病院を受診した際のレントゲンやCT検査で異常ありと判断されて受診する人が多いです。CTでは肺を0.5~1.0cmの厚さで輪切りにした画像をつくることができ、レントゲンに比べるとかなりの精度でがんの発見につながります。

死亡率の高い肺がん

肺は呼吸に関わる臓器なので命に関わりやすく、無症状のため発見が遅れがちで、死亡率が高くなっています。しかし、早期で発見し、適切な治療を行えば8~9割の人が良くなります。初期であれば治療にかかる時間も費用も抑えられますし、肺が健康な人であれば手術から1

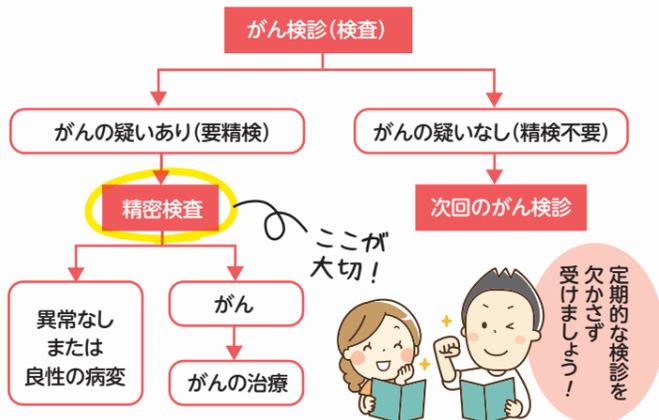


浦添総合病院 呼吸器食道外科 谷口 春樹 医師

肺がんは早期発見すれば治療できますが、放っておくと亡くなってしまいます。検診を受けないと見つからない病気もたくさんあります。ぜひ検診を受けてもらいたいです。

検診で早期発見を

現在は新型コロナウイルスの流行のため、検診に行きにくい状況があると思いますが、検診センターでは検温や手指衛生などしっかり対策を行っています。肺がんは早期発見すれば治療できますが、放っておくと亡くなってしまいます。検診を受けないと見つからない病気もたくさんあります。ぜひ検診を受けてもらいたいです。



がん検診は受けた後も大切!

がん検診は健康な人と多少でもがんの可能性が疑われる人を見極めて振り分ける入口の検査です。「要精密検査」と診断された場合、精密検査を受けることで初めてそれが心配なものか、がんの可能性があるかが判断されます。精密検査を受けずにいると、せっかく見つけることができたがんを見逃してしまうかもしれません。精密検査の対象となった人は必ず精密検査を受けましょう。

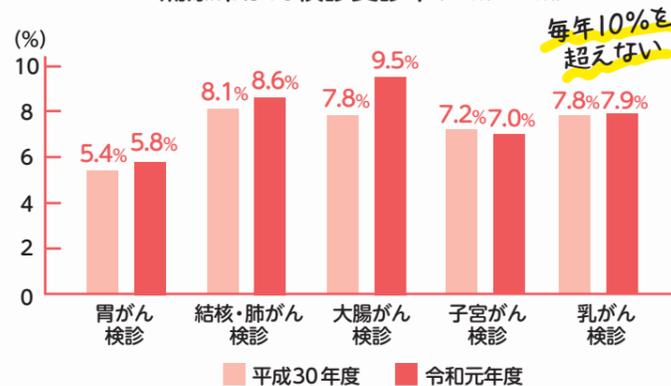


Let's!!

自分のために今できること

今こそ受けよう! がん検診

▼浦添市がん検診受診率(40歳~74歳)



浦添市の死亡第1位はがん、次いで心疾患、脳血管疾患となっています。2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなる時代と言われています。近年、健康寿命を延ばすために、食事や運動など健康維持に対する関心が高まっていますが、日本のがん検診受診率は諸外国と比べるととても低くなっています。浦添市のがん検診受診率もどれも10%に満たないのが現状です。

▼浦添市がん部位別死因順位(平成30年)

性別	第1位	第2位	第3位
男性	肺がん	大腸がん	すい臓がん
女性	大腸がん	子宮がん	肺がん

▼沖縄県がん罹患数順位(平成28年)

性別	第1位	第2位	第3位
男性	大腸がん	前立腺がん	肺がん
女性	乳がん	大腸がん	子宮がん

※罹患数…新たに診断された人数

「忙しくて時間がない」「健康だから行かなくても大丈夫」と思っていますか。検診は症状がない時から受けるものです。がんの中でも胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんは、がん検診による早期発見・早期治療の有効性が認められています。がんを発見するには健康診断だけではなく、がん検診を受けることが大切です。今回は浦添市がん部位別死因男性第1位の肺がんと沖縄県がん罹患数女性第1位の乳がんを取り上げ、がん検診について紹介します。